



環境経営レポート2025

報告対象期間：2025年4月～2026年3月

（一部、2026年4月以降の活動も掲載）

VAIO株式会社

発行：2026年6月30日



目次

1. はじめに	3
2. 会社概要	4
3. 環境経営理念・方針・組織	5
4. SDGsへの貢献	6
5. カーボンニュートラルを目指して	7
6. 資源循環に向けて	12
7. サイト環境活動	14
8. 製品環境活動	18
9. 生物多様性保全活動	28
10. 環境コミュニケーション	30
11. 環境教育・訓練	31
12. 社会貢献活動	32
13. 環境関連法規制等の順守評価	33
14. EMS/EnMSマネジメントレビュー	34

1. はじめに

私たちの原点は、ものづくりへの情熱と未来への希望です。

1997年の日本での誕生以来、VAIOは様々な革新と美意識を融合させた製品を生み出してきました。2014年のソニーからの独立後も、その精神を受け継ぎ、日本の長野県安曇野の本社工場を拠点に、ものづくりを続けてきました。

私たちが目指すのは、新たな理想工場の建設です。そこでは、創造力と技術力が響き合い、働く人々が夢を語り、挑戦を楽しみながら、ものづくりに関わるすべての工程を自らの手で行い、世界中のお客様に悦ばれる製品を生み出します。単なる生産拠点ではなく、未来を切り拓く知恵と情熱の結晶となる場です。

この理想工場から、日本の製造業を再び輝かせます。高品質・高性能を追求しながら、時代の一步先を行く価値を創造し、世界に「カッコイイ」「カシコイ」「ホンモノ」の製品を届ける。それは、私たちの使命であり、誇りです。

VAIOは2014年の設立以来、一貫して環境経営を推進しています。

安曇野本社・本社工場においては、国際的な環境マネジメントシステムである「ISO14001」の認証を2023年度に取得し、2025年度にはエネルギーマネジメントシステム「ISO50001」の認証も取得※いたしました。これにより、環境負荷低減に加え、エネルギーの効率的利用および継続的な改善を一層強化しています。気候変動や資源枯渇といった様々な地球環境問題が顕在化する中、環境への取り組みを企業の責任と認識し、事業活動やものづくりにおいて環境負荷低減を図り、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

私たちは、夢を描き、チャレンジを楽しみ、同じ志を持つ仲間とともに愉快地未来を創っていきます。これからのVAIOに是非ご期待ください。



VAIO株式会社
代表取締役
執行役員社長

糸岡 健

※ 登録認証番号(ISO 14001) : 01 104 2534344
登録認証番号(ISO 50001) : 01 407 2534345
登録事業者 : VAIO株式会社 安曇野本社・本社工場
登録活動範囲 : パーソナルコンピュータ及びモバイルディスプレイの設計・開発、製造及びカスタマーサポート
PC周辺機器の設計・開発及びカスタマーサポート



2. 会社概要

2026年6月23日時点

会社名	VAIO株式会社		
設立日	2014年7月1日		
代表取締役社長	糸岡 健		
安曇野本社・本社工場	〒399-8282	長野県安曇野市豊科5432	TEL : 0263-87-0810 (代表)
東京本社	〒105-0001	東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル17階	TEL : 03-6420-0960 (代表)
大阪オフィス	〒541-0046	大阪府大阪市中央区平野町2-4-9 淀屋橋PREX12階	
名古屋オフィス	〒460-0008	愛知県名古屋市中区栄3-2-3 名古屋日興證券ビル4階	
福岡オフィス	〒812-0013	福岡県福岡市博多区博多駅東1-18-33 博多イーストテラス1階 Mol.t	
東京開発センター	〒190-0012	東京都立川市曙町1-21-1 いちご立川ビル3階	
URL	https://vaio.com/		
事業内容	PC事業：企画、設計、開発、製造および販売と、それに付随するサービス		
事業年度	4月～3月		
資本金	2,052百万円		

	安曇野本社・本社工場	東京本社	その他オフィス	
従業員数	505人	166人	17人	(派遣社員等含む)
延床面積	30,486m ²	1,156m ²	369m ²	
環境責任者	糸岡 健（代表取締役社長）			
環境管理責任者	中村 憲政（品質保証部 国際認証課 課長）			
環境事務局	内田 昌樹、黒岩 浩司、青柳 美穂、高木 一裕、青柳 秀典、泉 泰志、秋山 信一郎、綿貫 剛士、山本 美帆、奥原 剛			



3. 環境経営理念・方針・組織

【環境経営理念】

水と緑豊かな安曇野に立地するVAIOとして、身近な環境に限らず、国際的な環境活動と調和した事業活動を行い、持続可能な社会の実現に貢献します。

【環境経営方針】

1. 環境に配慮した製品・サービスを提供し、お客様の環境負荷低減及びSDGsの達成に貢献します。
2. 働きやすい環境の整備、エネルギー使用の合理化を行い、2030年度にCO₂排出量を2018年度比で50%^{*1}削減します。
3. 資源の有効利用、リサイクル化を推進し、循環型社会の実現を目指します。
4. 事業活動や地域貢献活動を通じ、生物多様性の維持・回復に努めます。
5. 環境及びエネルギーに関連する法規制等を順守します。
6. 環境及びエネルギーに関わる目的及び目標達成に必要な情報及びリソースを提供します。
7. 環境パフォーマンス及びエネルギーパフォーマンス向上のため、環境及びエネルギーマネジメントシステムの継続的改善を実施します。

環境経営方針は全社員に周知し、全員参加で自主的・積極的に取り組みます。
また、環境経営方針は社外にも公表します。

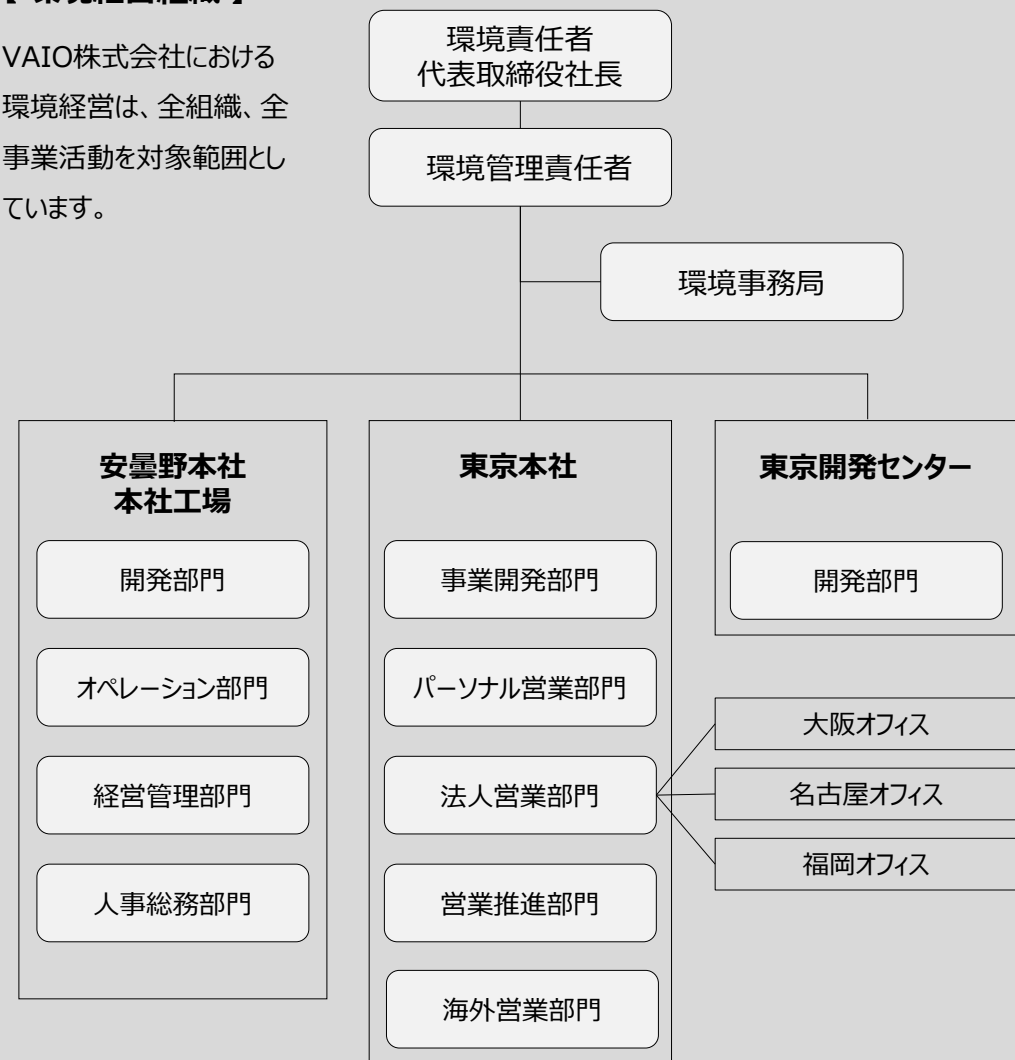
^{*1} GHGプロトコルのScope 1, 2に該当するCO₂排出量をいいます。

制定日：2015年1月28日
改定日：2025年12月1日

VAIO株式会社
代表取締役社長 糸岡 健

【環境経営組織】

VAIO株式会社における環境経営は、全組織、全事業活動を対象範囲としています。



4. SDGs への 貢献

2025年度は、SDGsの17のゴールに対して、
15のゴールに直接的・間接的に貢献しています。

●：直接貢献 ○：間接貢献



		貧困 ゼロ	飢餓 ゼロ	健康と 福祉	教育の 平等	ジェンダー 平等	安全な水と トイレ	クリーン エネルギー	働きがい 経済成長	産業と 革新	格差 解消	持続可能な まちづくり	生産と 消費	気候 変動	海を 守る	陸を 守る	平和と 公正	パートナー シップ
製品・ サービス	製品の市場品質の向上・生産工程品質の向上			○						●			●	●				
	製品の省エネ化（消費電力削減）							●					●	●				
	製品の軽量化・省資源化（重量削減・塗装レス・レーザー刻印化）							○		●			●	●				
	製品の長寿命化・修理復帰率向上									●			●	●				
	環境配慮型製品の企画・設計（LCA・製品環境アセスメント含む）									●			●	●				
	環境認証対応（EPEAT 等）									●			●	●				○
	化学物質管理・有害物質削減			○			○						●			○		
資源循環	プラ包装削減・再生材・植物由来材の活用												●	●	●	○		
	包装・マニュアルの環境対応（電子化含む）						○						●	●		○		
	余剰部品削減・資源効率向上									●			●	●				
	リユース・リファービッシュ製品の拡大（Reborn VAIO™）								○	●			●	●				
エネルギー・ 設備	生産・設備の省エネ化（空調・工程改善含む）							●		●			●	●				
	再生可能エネルギーの利用							●					●	●				
	燃料使用量削減（重油削減等）							●					○	●				
	水資源管理（使用量監視・漏水防止等）						●						●			○		
	エネルギーマネジメント（ISO50001）							●		●			●	●				
物流・ サプライ チェーン	物流の低炭素化（モーダルシフト等）									○			○	●				
	Scope 1・2・3排出量算定・第三者検証													●			●	○
	カーボン・オフセット・サービスの提供												○	●				○
販売・ コミュニケー ション	環境配慮型製品の販売促進・海外展開									●	○	○	●	●				●
	環境コミュニケーション強化												●	○			●	●
経営・社会	働き方改革（リモートワーク推進・残業削減・育休推進）			●	○	●			●	●		○		●				
	経営効率化（業務効率・システム化・経費管理）								●	●								
	環境・品質マネジメント・法令順守（ISO14001・ISO9001）												●	●			●	
	社会・生物多様性（地域美化・障害者支援・オオルリジミ保護）										●	●	○	○	●	●		

5. カーボンニュートラルを目指して

産業革命以降の平均気温の上昇を1.5℃未満に抑える「1.5℃目標」達成に向け、世界は大きく動いています。

VAIO株式会社は、この「1.5℃目標」達成に向け、2030年度を目標年度とする温室効果ガス削減目標を2018年度比で50%削減することを環境経営方針に掲げ、2022年7月に国際的な気候変動イニシアチブである SBTi により「中小企業版 SBT※1」に認定されています。



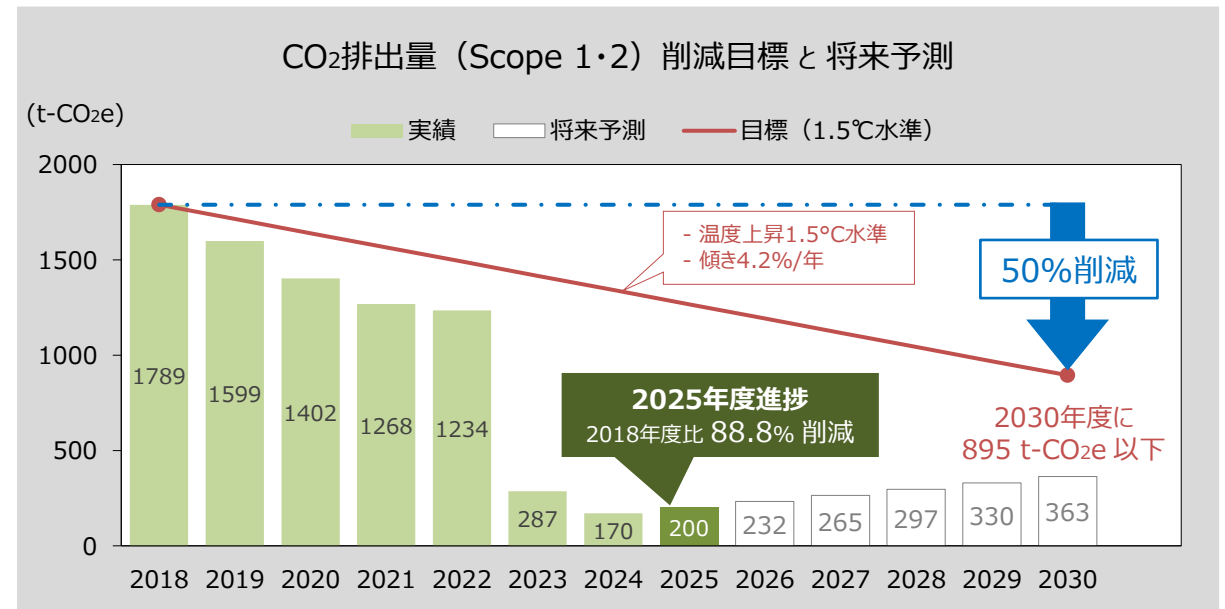
安曇野本社・本社工場では、2023年7月より使用する全電力を再生可能エネルギー化。今後の事業拡大を見据えても、2030年度におけるCO₂排出量（Scope 1・2）50%削減を達成できる見込みです。

再生可能エネルギーの導入



https://vaio.com/news/co2free_230703/

CO₂排出量（Scope 1・2）削減目標と将来予測

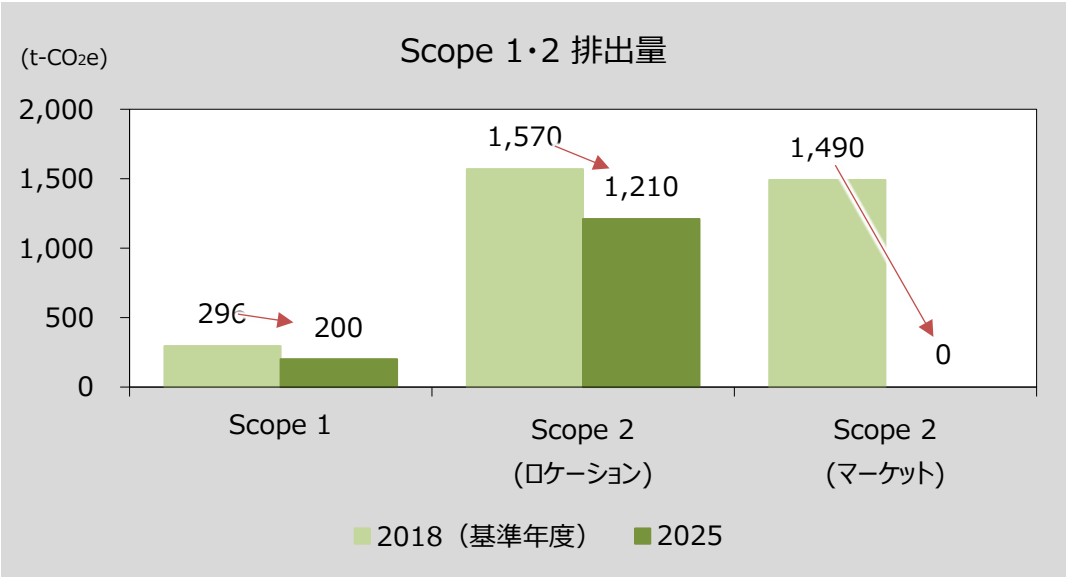


※1 SBT: Science Based Targetsは、国際的な枠組みである「パリ協定」が求める水準と整合した温室効果ガス削減目標のこと

Scope 1・2排出量／エネルギー使用量／水使用量（2025年度）

Scope 1・2 排出量※1※2※5

実質ゼロ	Scope 2（マーケット基準） 再生可能エネルギー導入により 1,490 → 0 t-CO ₂ e
-32%	Scope 1 296 → 200 t-CO ₂ e
-23%	Scope 2（ロケーション基準） 1,570 → 1,210 t-CO ₂ e



	2018年度（基準年度）	2025年度
Scope 1	296	200
Scope 2（ロケーション基準）	1,570	1,210
Scope 2（マーケット基準）	1,490	0

Scope 1 種類別GHG排出量※1※5

	2025年度
エネルギー起源CO ₂	188
非エネルギー起源CO ₂	0
メタン（CH ₄ ）	0.0533
一酸化二窒素（N ₂ O）	0.125
ハイドロフルオロカーボン類（HFC）	11.3
パーフルオロカーボン類（PFC）	0
六フッ化硫黄（SF ₆ ）	0

エネルギー使用量※5

	2025年度
電気（千kWh）	2,863
A重油（kL）	60.3
LPガス（t）	5.7
ガソリン（kL）	2.0
軽油（kL）	0.4

水使用量※4※5

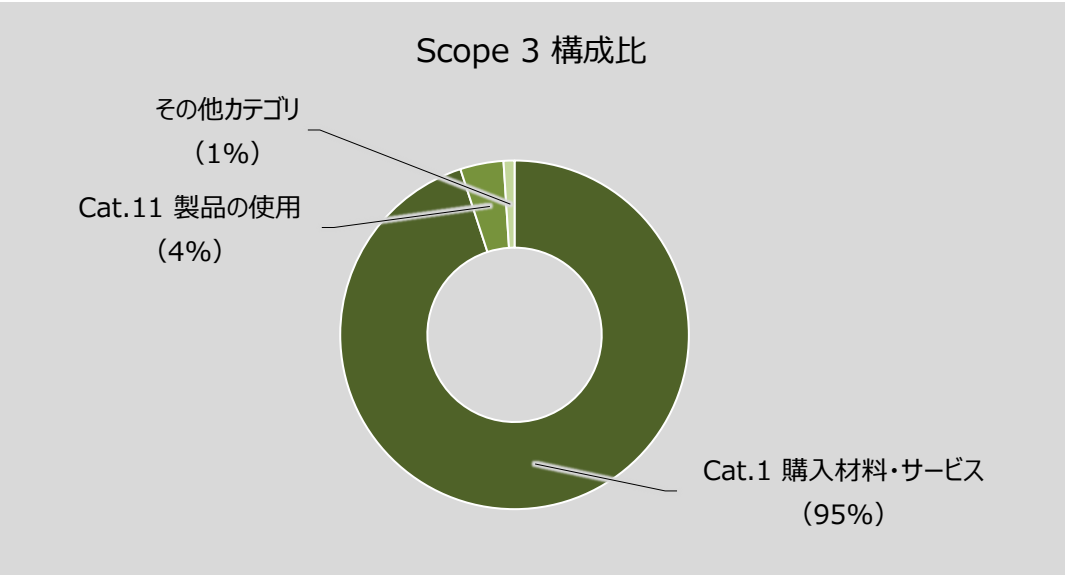
	2025年度
水使用量（m ³ ）	14,327

Scope 3 排出量（2025年度）

Scope 3 排出量※3※5

299,000 t-CO₂e

Scope 3 合計（2025年度）
2023年度（基準年度）：206,000 t-CO₂e
→ +45%



Scope 3 カテゴリ別GHG排出量※3※5

単位：t-CO₂e

	2023年度（基準年度）	2025年度
Cat.1 購入した材料・サービス	195,000	284,000
Cat.2 資本財	2,010	1,470
Cat.3 燃料・エネルギー関連	220	235
Cat.4 輸送・配送（上流）	353	778
Cat.5 事業所から出る廃棄物	35.5	119
Cat.6 出張	239	175
Cat.7 通勤	151	180
Cat.11 販売した製品の使用	7,660	12,000
Cat.12 販売した製品の廃棄	45.1	70.1
Cat.8, 9, 10, 13, 14, 15	算定対象外	算定対象外

※1 Scope 1 排出量の算定には、環境省「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver.6.1」および 環境省「フロン類算定漏えい量の報告に用いるフロン類の種類及び地球温暖化係数(GWP)」(令和5年改正・令和6年度以降の適用)の係数を使用しています。端数処理により、各項目の合計と総排出量が一致しない場合があります。有効桁数3桁で表示しています。

※2 Scope 2 排出量の算定には、ロケーション基準においては環境省・経済産業省「電気事業者別排出係数」(令和6年度実績)の全国平均係数を使用し、マーケット基準においては電力会社の契約係数(再エネはゼロ係数、電気事業者別排出係数(残差))を使用しています。端数処理により、各項目の合計と総排出量が一致しない場合があります。有効桁数3桁で表示しています。

※3 Scope 3 排出量の算定には、環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース Ver.3.6」の原単位を使用しています。Cat.8, 9, 10, 13, 14, 15については、当社の事業内容およびバリューチェーンにおいて該当する取引・活動が存在しないことを確認し、GHGプロトコルに基づき算定対象外としました。端数処理により、各項目の合計と総排出量が一致しない場合があります。有効桁数3桁で表示しています。

※4 上水道の使用量です。

※5 一般財団法人 日本品質保証機構(JQA)の第三者検証を受けた値です。

カーボン・オフセット・サービス

カーボン・オフセット / カーボン・オフセット・サービスとは

カーボン・オフセットとは、企業活動などで排出される温室効果ガスのうち、どうしても削減できない分を、他の場所で削減された温室効果ガスを排出権（クレジット）という形で購入して埋め合わせる仕組みです。

カーボン・オフセット・サービスとは、カーボン・オフセットを提供するサービスです。例えば、購入する商品のLCA（Life Cycle Assessment）で算定された温室効果ガス量（CFP: Carbon Footprint of Product）をオフセットするサービスを付帯して購入すると、その商品による温室効果ガス負荷を相殺できるため、購入者はその商品の購入・使用・廃棄における環境負荷を増やさないことになります。

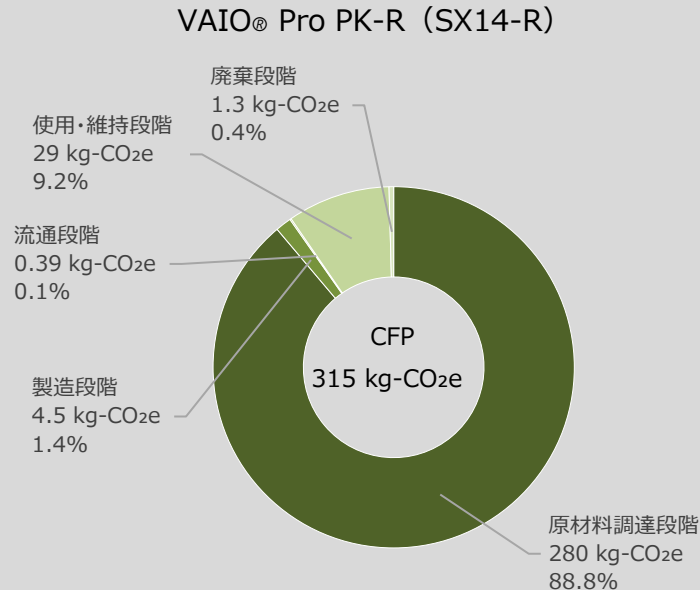
VAIO株式会社では、カーボン・オフセット・サービスを提供中

お客様が、VAIO PC をご購入いただく際にカーボン・オフセット・サービスの付帯を希望される場合、VAIO株式会社が、ご購入いただくPCのLCAで算定されたCFP総量分の J-クレジットを購入し、その J-クレジットは国へ寄付・譲渡する等の無効化処理※を行います。

お客様へは、販売したPCのシリアル番号と無効化処理したクレジットを紐づけした「証明書」を提出いたします。

また、お客様のご要望により、「水田中干し期間延長による温室効果ガス削減」により創出した J-クレジットによりカーボン・オフセットしたPCの販売も行っています。

※ 国に寄付・譲渡することで、国のカーボンニュートラル実現に寄与することになります。



説明書発行番号: [] 年[]月[]日

様

長野県安曇野市 国 5432 第地

VAIO株式会社

カーボン・オフセット証明書

VAIO 株式会社は、貴社とのカーボン・オフセット・サービスの契約により、貴社が温室効果ガス削減クレジットを使用したカーボン・オフセットを実行したことを証明します。

記

クレジット種別	J-クレジット
排出削減額	639kg-CO ₂
契約証書発行日	年[]月[]日
対象案件	VJR223 [] 3台 (シリアル番号は別紙参照)
クレジット識別番号	[] から [] まで
オフセット実施者	[]

VAIO 株式会社がオフセット実施者に代わり、別紙記載の温室効果ガスの削減・吸収するクレジットを調達および無効化することにより、上記の内容のカーボン・オフセットを実施しました。

1

エネルギーマネジメントシステム「ISO50001」の 認証取得

VAIO株式会社は、安曇野本社・本社工場を対象に、エネルギーマネジメントシステムの国際規格である「ISO50001」の認証を2026年2月24日に取得しました。

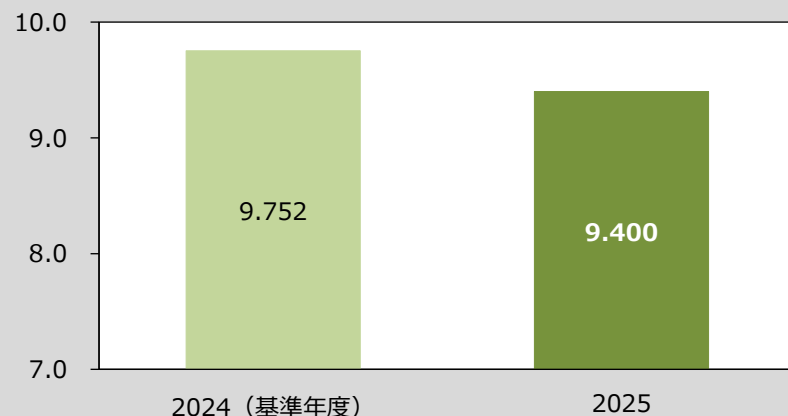
ISO50001は、エネルギー使用状況を的確に把握・分析し、効率向上と継続的な改善を組織的に推進するための国際規格です。本認証の取得は、これまで現場主体で推進してきた省エネルギー活動や、設備運用の見直しといった継続的な取り組みが評価されたものです。

2025年度は、空調で使用する一般電力および冬季における加温・加湿に使用するボイラーの燃料であるA重油の使用をSEU（著しいエネルギー使用）として設定し、運転条件の最適化や設備の更新を行いました。その結果、基準年度である2024年度と比較してエネルギー使用効率の改善を達成しました。比較においては、外気温や空調エリア面積の影響を除外する正規化を行っています。

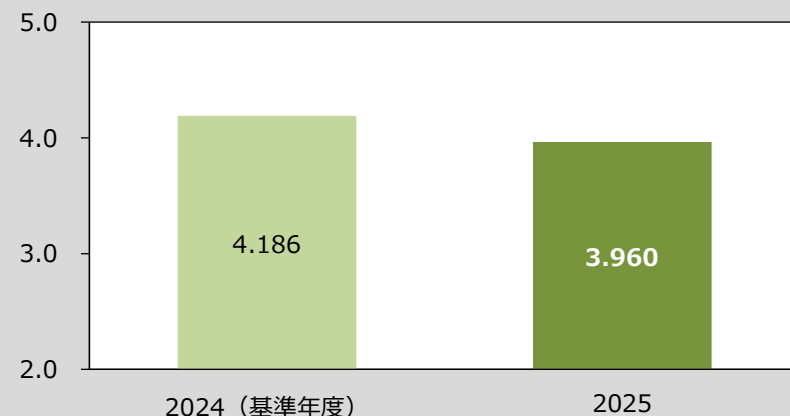
今後も、ものづくりの現場を起点としたエネルギー効率の向上と環境負荷の低減に取り組むとともに、持続可能な事業運営に貢献できるよう、継続的な改善を進めてまいります。VAIO公式サイト：https://vaio.com/news/news_260421/



(千kWh/千m²) 一般電力使用量(正規化)



(千kWh/千m²) A重油使用量(正規化)

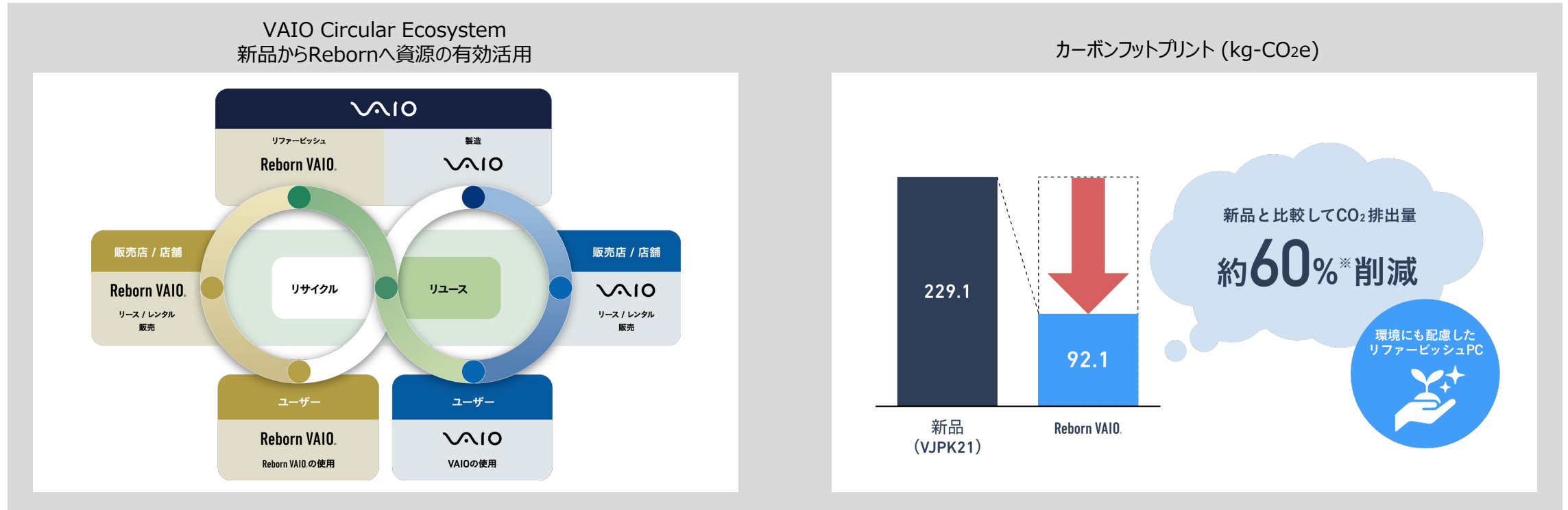


6. 資源循環 に向けて

Reborn VAIO®（メーカー保証付きリファークビッシュPC）

環境負荷を減らしながら、VAIO品質を次のユーザーへつなぐ、それが、Reborn VAIO® が目指す循環型事業です。

- 新品から3～4年間使用されたノートPCが、Reborn VAIO® に再生されることでさらに使用可能となり、製品・資源の長期利用につながります。
- 再生したReborn VAIO® をご使用いただくことで、新品に比べ製品のカーボンフットプリントを約60%※削減することができます。
- メーカーが率先して回収・リファークビッシュを行うことで、循環型社会の実現に貢献します。

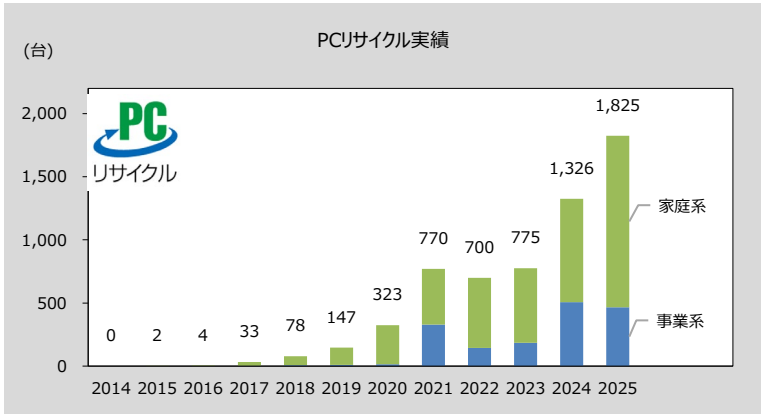


※VAIO LCA算定による。新品のVJPK21とReborn VAIO®（メーカー保証付きリファークビッシュPC）のVJPK21を比較。

パソコンリサイクル

VAIO株式会社では、「資源有効利用促進法」に基づき、ご不要となった弊社製パソコンの回収・再資源化を行っています。

弊社製パソコンは「PCリサイクルマーク」を表示しておりますので、お客さまに新たな料金をご負担いただくことなく、弊社が回収・再資源化いたします。



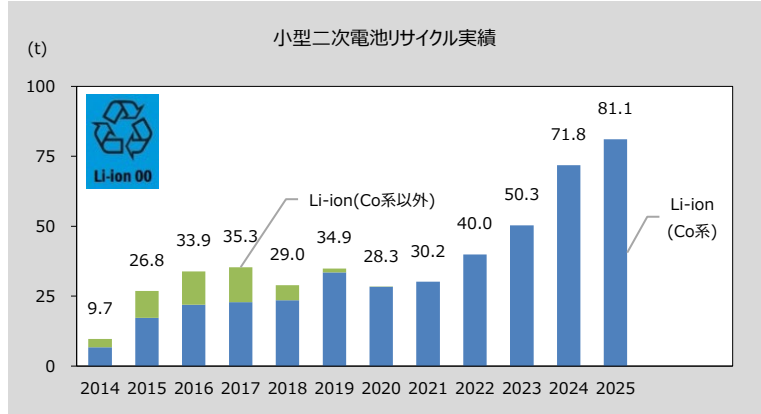
家庭系/事業系	回収・再資源化台数
事業系	467 台
家庭系	1,358 台
合計	1,825 台

VAIO株式会社は、一般社団法人 パソコン3R推進協会 の会員です。

バッテリーリサイクル

製品に用いられている充電式電池（バッテリー）には、リサイクル可能な希少金属材料が使用されています。

VAIO株式会社では、「資源有効利用促進法」に基づき、製品に搭載している充電式電池（バッテリー）の回収・リサイクルの推進に努めています。



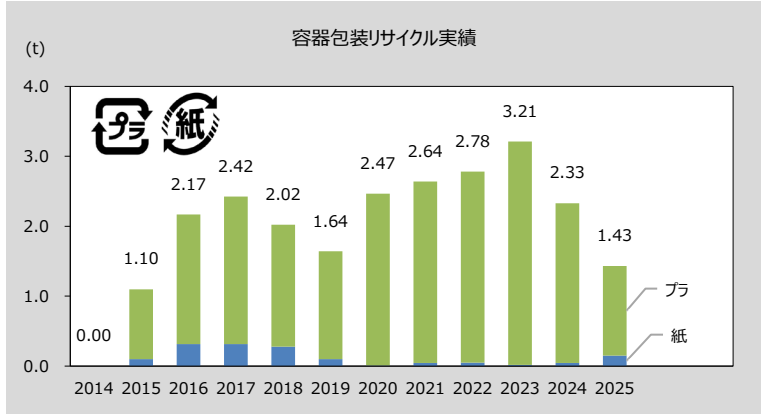
電池種別	リサイクル委託重量
Li-ion (Co系)	81.1 t
Li-ion (Co系以外)	0 t
合計	81.1 t

VAIO株式会社は、一般社団法人 JBRC の会員です。

容器包装リサイクル

VAIO株式会社では、「容器包装リサイクル法」に基づき、容器包装の再商品化の推進に努めています。

弊社製品に用いられている容器包装には、「資源有効利用促進法」に基づき、識別マークを表示しています。



素材	再商品化委託重量
紙製容器包装	0.15 t
プラスチック製容器包装	1.28 t
合計	1.43 t

VAIO株式会社は、公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会 の会員です。

7. サイト環境活動

目標設定

CO₂排出量（Scope 1・2）は、2018年度の実績値を起点として、2030年度までに半減させることを目標とした上で、各年度の目標を設定しています。

また、廃棄物排出量は、事業規模による変動があるため、売り上げに対する排出量の比率（排出量/売上）で算出し、さらに2016年度の実績を『100』として換算した原単位を用いています。2016年度を基準年度とし、2017年度以降は年2ポイントずつ削減することを目標としています。

2025年度の 結果

取組項目	単位	2025年度		
		目標	実績	評価
CO ₂ 排出量※1（Scope 1・2）の削減	t-CO ₂ e	1,267 以下	200	○
エネルギー使用効率の向上	原油換算kL/億円	0.681 以下	0.513	○
廃棄物排出量の削減	原単位※2	82 以下	67	○
リサイクル率の向上	%	90 以上	96.9	○
水道使用量の削減	m ³	16,495 以下	14,237	○
グリーン購入率の向上	%	90 以上	95.6	○

※1 CO₂排出量の算定においては、国内での燃料の使用・燃焼、PFCの大気放出により排出されるGHGを「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル Ver6.1」および「フロン類算定漏えい量の報告に用いるフロン類の種類及び地球温暖化係数(GWP)」（令和5年改正・令和6年度以降の適用）に基づき算定しています。

※2 原単位について：売り上げに対する排出量の比率（排出量/売上）で算出し、さらに、2016年度の実績を『100』として換算したものです。

CO₂排出量（Scope 1・2）の削減

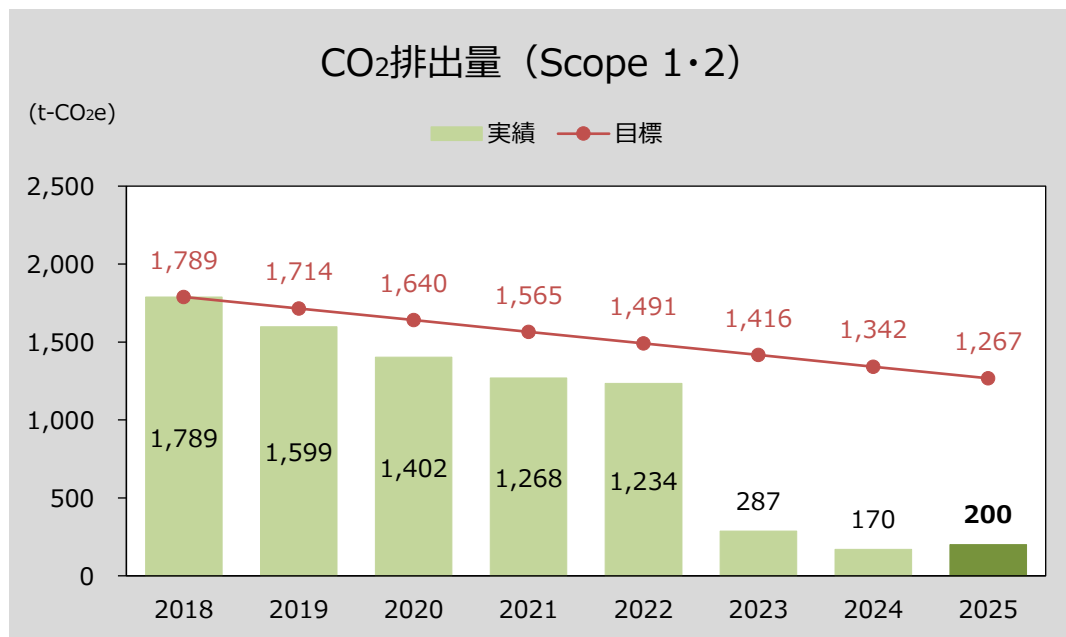
全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

全社における「CO₂排出量（Scope 1・2）」は、2025年度目標を大幅に達成しました。

取り組みとしては、

- CO₂フリー電力（再エネ100%）使用の継続
- 化石燃料から電力エネルギーへの切り替え、旧式冷媒使用機器の更新
- 製造工程における省電力化
- 全体空調機稼働の適正化
- 温度管理の徹底（冬20℃、夏28℃）、クールビズ・ウォームビズの推進
- 照明・エアコンの不要時OFFの徹底、OA機器の省電力設定

を実施しました。



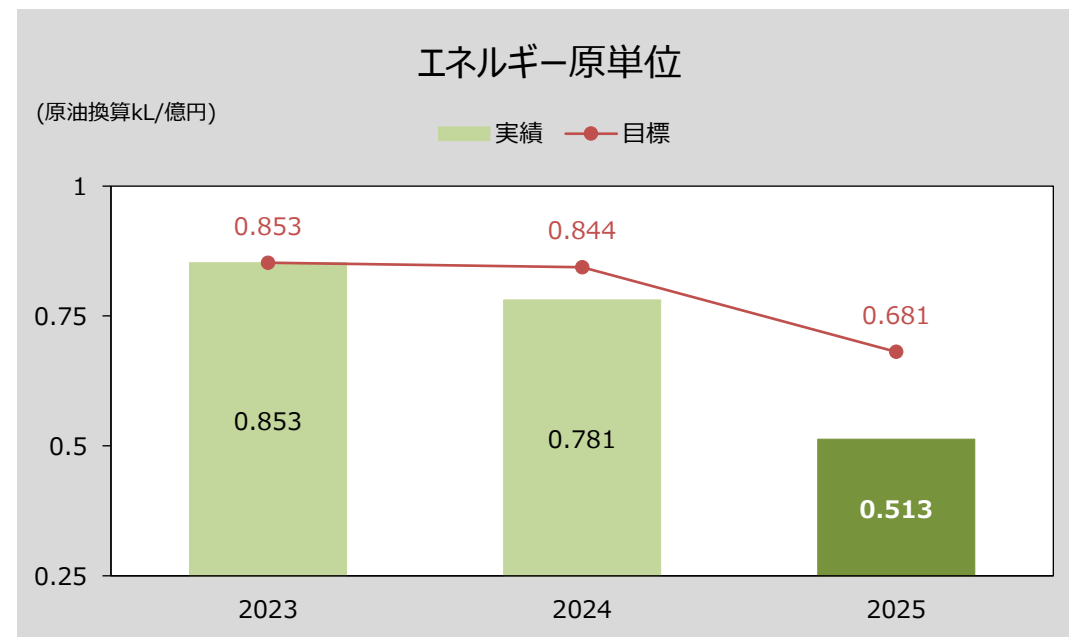
エネルギー使用効率の向上

全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

2023年7月から、使用する全電力を再生可能エネルギー化したことにより、CO₂排出量を大幅に削減することができました。

しかしながら、エネルギーの無駄遣いは資源の枯渇といった環境影響となるため、VAIOでは2024年度より、新たに「エネルギー原単位管理指標」を設定。前年度比1%削減を目標として取り組んでいます。

$$\text{エネルギー原単位（原油換算kL/億円）} = \frac{\text{総エネルギー使用量（原油換算kL）}}{\text{売上高（億円）}}$$



廃棄物排出量の削減

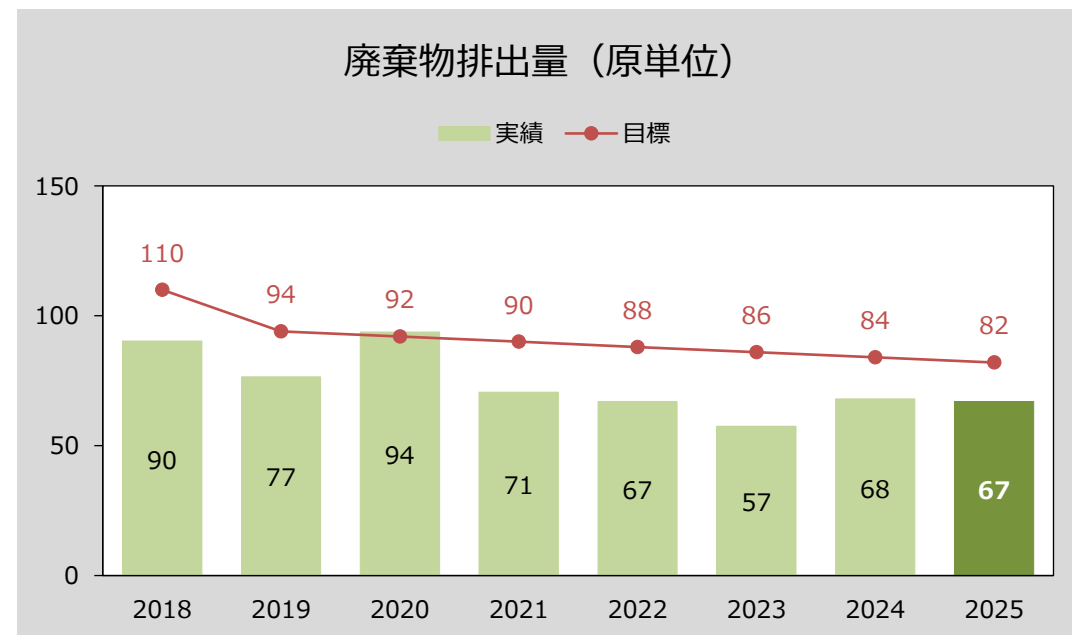
全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

全社における「廃棄物排出量」は、2025年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 社内ホームページに廃棄物情報を掲載
- 分別徹底の推進（現場への表示・リサイクルステーション監視強化）
- 電子化・両面コピー・縮小コピー・裏紙使用の推進
- 廃棄物データ計量による排出量の監視
- 廃棄物の有価化推進

を実施しました。2025年度の廃棄物排出量は 204.2t でした。



リサイクル率の向上

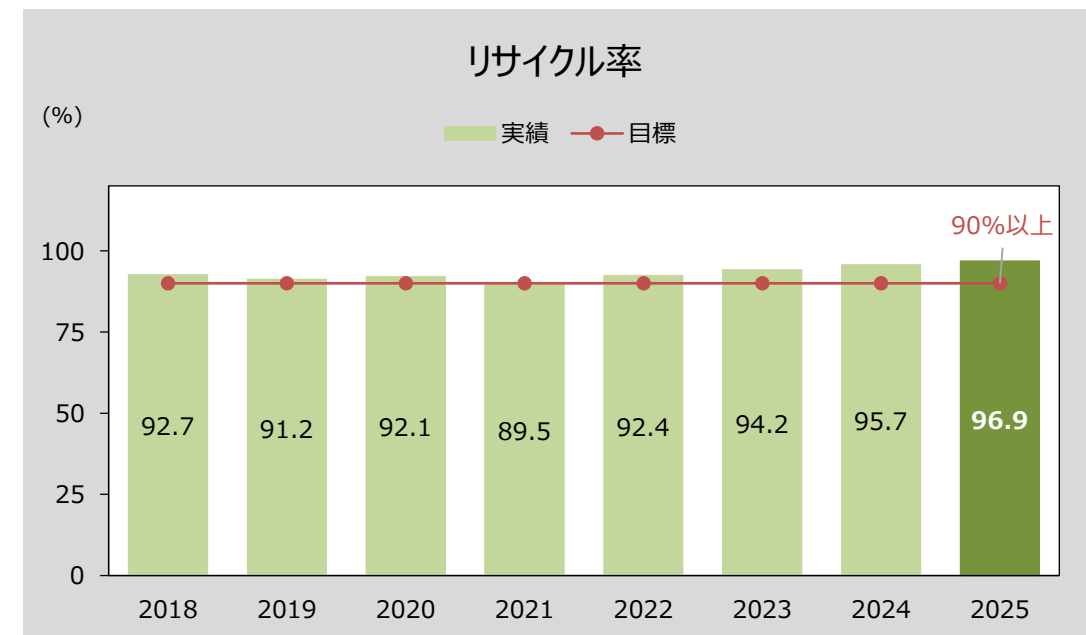
全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

全社における「リサイクル率」は、2025年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 各職場に「リサイクルステーション」を設置
- 分別徹底の推進（リサイクルステーションの監視強化）
- 一般可燃物削減活動の継続および分別徹底の周知
- 廃棄物データ計量による排出量の監視

を実施しました。



水道使用量の削減

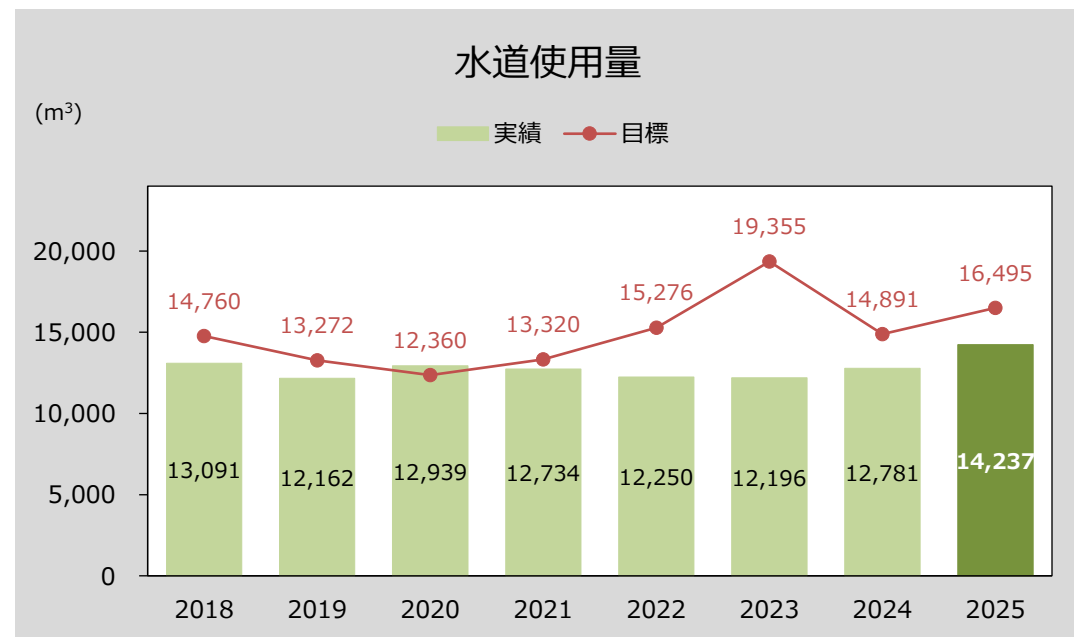
全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

安曇野本社・本社工場における「水道使用量」は、2025年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 日常生活での節水の啓発
- 水道蛇口の水量調整を各所洗面台へ展開
- 水量データの計測・分析を行い、漏水の有無と漏水エリアの割り出しおよび改善

を実施しました。



グリーン購入率の向上

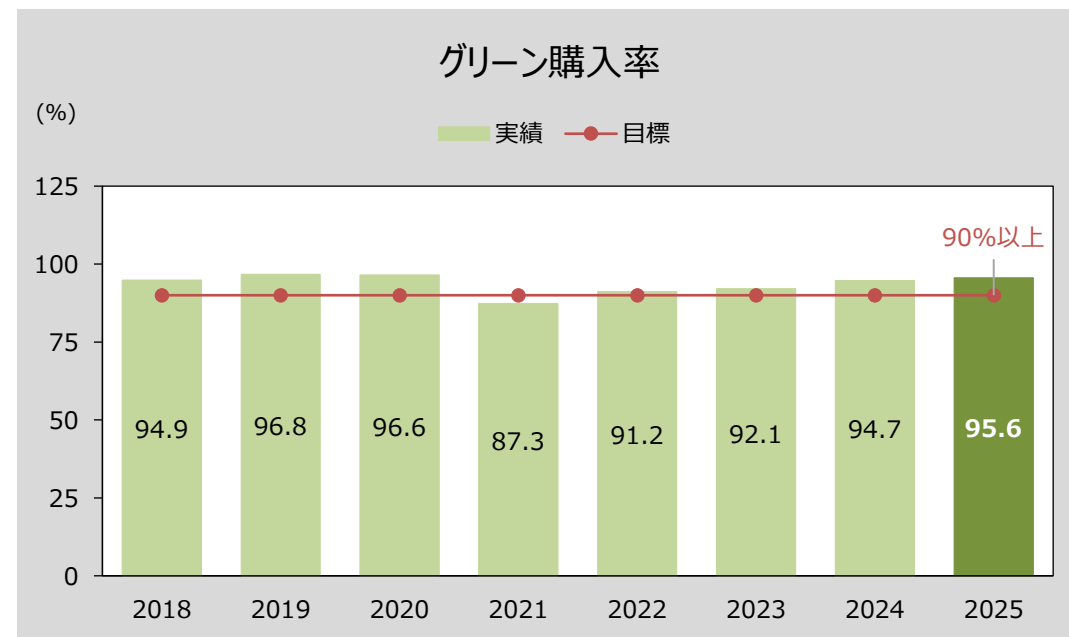
全社（安曇野本社・本社工場 + 東京本社他）

全社における「グリーン購入率」は、2025年度目標を達成しました。

取り組みとしては、

- 購入依頼品がグリーン対象であるかの確認
- グリーン購入品目への変更検討（購入部門と調整）
- 月次でグリーン購入率を集計し、継続的に監視
- 可能な限りグリーン対象品を選定するよう社内アナウンス

を実施しました。



8. 製品環境活動

目標設定

PC製品においては、2020年度に2025年度を達成年度とした中期目標である「製品環境負荷低減目標2025」を策定し活動してまいりました。
2025年度は、中期目標の目標年度となりますが、全ての項目で目標を達成しました。

2025年度の 結果

活動テーマ	取組項目	2025年度		
		目標	実績	評価
エネルギー使用の合理化	省エネ基準の達成※1	基準達成率100%以上	10区分 110.3%※1 12区分 158.5%※1	○
	オフモード消費電力の削減※2	0.5W以下	0.23W※2	○
資源の有効利用	製品本体への再生プラスチック使用量の向上※2※3	10%以上	10.0%※2※3	○
	包装材におけるプラスチック使用量の削減※4	2020年度比30%以上削減	84.5%削減※4	○
製品のLCA	LCA結果の第三者検証を取得	VAIO SX14-R / VAIO Pro PK-R のEPD※5取得	2025年6月25日 VAIO SX14-R / VAIO Pro PK-RのEPD※5を取得	○
	LCA結果の公開	LCA結果の公開	2025年7月2日 SuMPO※6のWEBにて公開 2025年8月29日 「環境経営レポート2024」にて公開	○

※1 省エネ法2022年度基準における区分別の達成率（過去モデルを含む2025年度に販売したモデルの販売台数による加重平均値）
※2 2025年度モデルの平均値です。
※3 機器本体に使用されるプラスチック全重量（プリント基板、電子部品、ケーブル、コネクタ、光学部品を除く）中に含有する再生プラスチックの重量比です。プレコンシューマ材料及びポストコンシューマ材料だけを再生材とみなします。
2025年度までに再生プラスチック使用率10%以上を目標としています。2020年度（基準年度）のプラ包装重量は、12インチ：42g 13インチ：21g 14インチ：27g 15インチ以上：102g です。
※4 梱包材におけるプラスチック使用量は、2025年度までに2020年度モデル比30%以上削減を目標としています。
※5 EPDは「Environmental Product Declaration」の略称で、国際規格であるISO14025に準拠する「タイプIII環境ラベル」です。
※6 一般社団法人サステナブル経営推進機構（SuMPO）

製品環境アセスメント

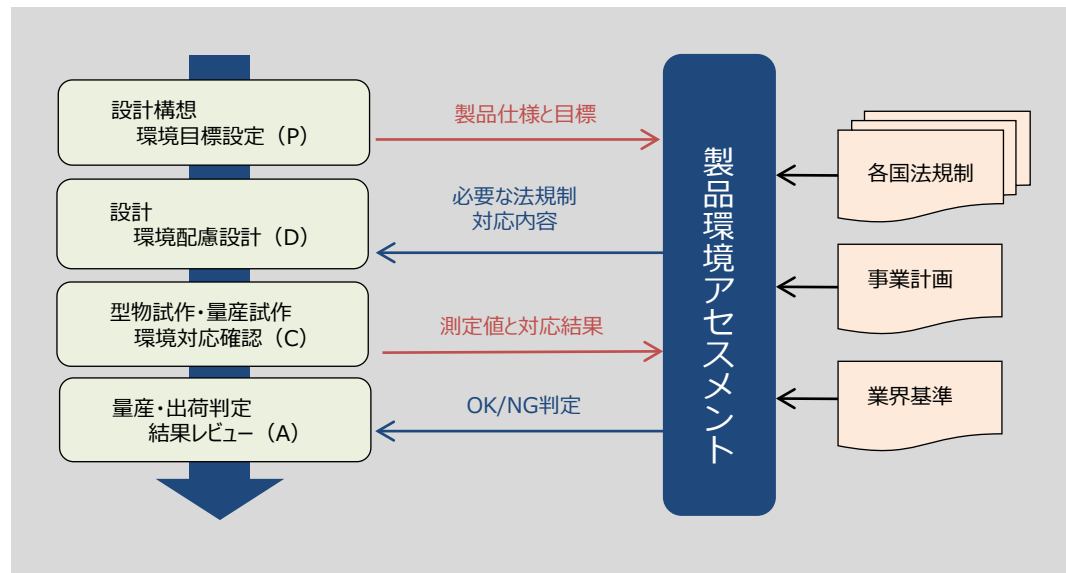
VAIO株式会社では、製品における環境配慮設計の実現と環境法規制等の順守に向け、「製品環境アセスメント」を実施しています。

製品環境アセスメントは、設計部門が行う商品化プロセスにおいて、環境目標設定 (Plan)、環境配慮設計 (Do)、環境対応・環境法規制順守確認 (Check)、および結果のレビュー (Action)のすべての段階で活用することができるものです。

2025年度も、全モデルの製品環境アセスメントを実施し、環境目標の達成度、自社基準および環境法規制等の順守状況を確認・評価しています。



VAIO株式会社における商品化プロセスと製品環境アセスメントの役割



製品環境アセスメントにおける評価項目

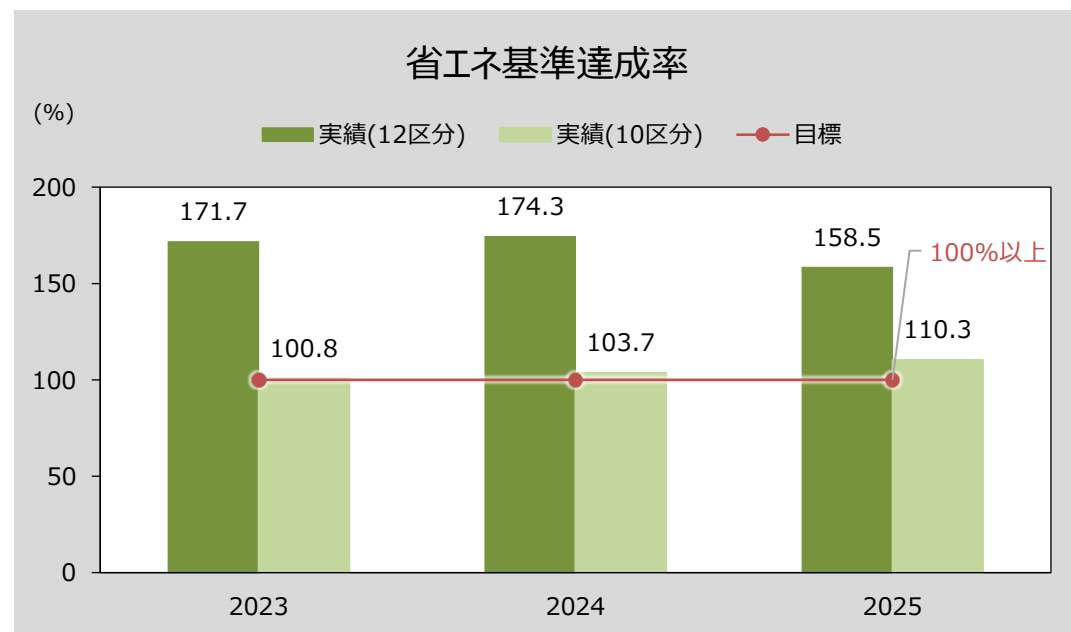
1. 環境関連物質の管理
 - 1.1 ハロゲンフリー対応
 - 1.2 PVCフリー対応
 - 1.3 アレルギーへの配慮
 - 1.4 シックハウス症候群への配慮
 - 1.5 電池の環境管理物質管理
 - 1.6 水銀フリー対応
 - 1.7 化審法・CLP
 2. 3R推進
 - 2.1 リデュース
 - 2.2 リユース
 - 2.3 リサイクル
 3. 省エネルギー
 - 3.1 ACアダプターの国際効率レベル
 - 3.2 搭載している省電力機能
 - 3.3 オフ時消費電力
 - 3.4 年間消費電力
 - 3.5 バッテリーライフ
 4. 包装
 - 4.1 包装材料
 - 4.2 印刷用インク
 - 4.3 包装材の廃棄容易性
 - 4.4 包装材重量・サイズ
 5. 取説・情報提供
 - 5.1 開示情報と説明内容
 - 5.2 附属書類（紙・インク・重量）
- 各仕向け法規制確認
- ・本体表示
 - ・取説表示
 - ・包装表示
 - ・認証と登録
 - ・環境管理物質

省エネ基準の達成

2025年度の「省エネ基準達成率※」は、年度目標である100%以上に対し、12区分では目標を大幅に上回る158.5%を達成、10区分でも110.3%を達成しました。

- CPU省電力機能の確実な実装により、無駄な電力消費をギリギリまで抑えるパワーマネジメントが可能です。
- 低消費電力LCDの採用など、省電力デバイスを積極的に採用しています。
- モダスタンバイというスリープモードに対応しており、PC使用時、何も操作をしないと10分以内に自動的にスリープモードへ移行。スリープ中は最大限の省電力化をしており、無駄な電力を削減できることから長時間バッテリー駆動に貢献します。

※省エネ法2022年度基準における区分別の達成率。

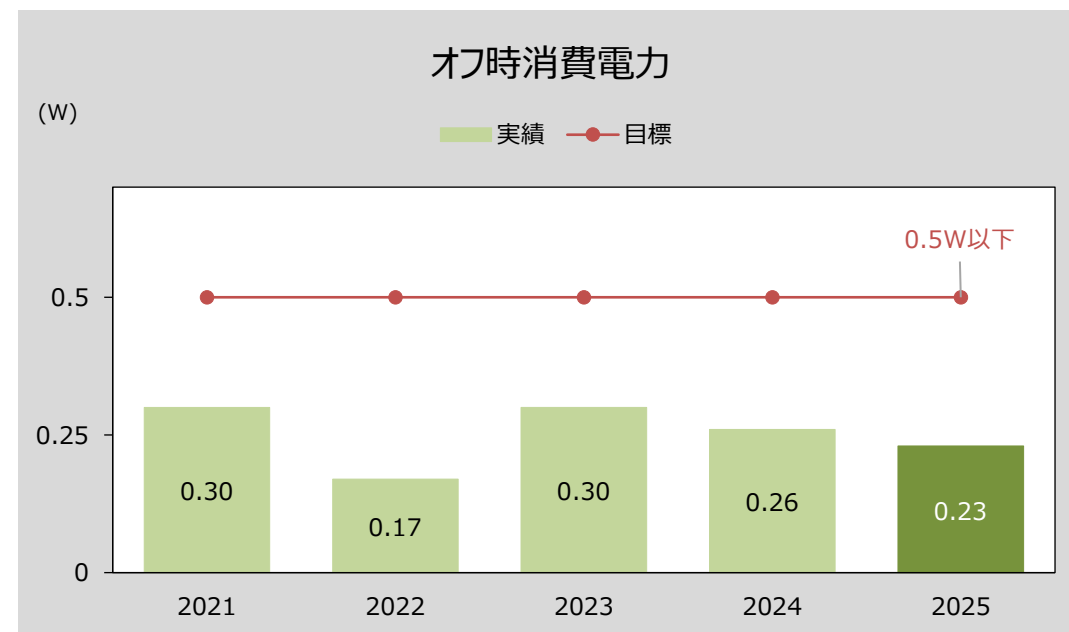


オフ時消費電力の削減

2025年度モデルの「オフ時消費電力※」は、年度目標である0.5W以下を大きく下回る0.23Wを達成しました。

- 電源オフ時のリーク電流確認。
- 電源オフ時のEC省電力機能の実装。
- 次世代半導体と呼ばれるGaN（窒化ガリウム）パワー半導体を採用した高効率ACアダプターを使用。

※2025年度モデルの平均値です。



再生プラスチックの使用量向上

2025年度モデルの「再生プラスチック使用含有率※1」は、年度目標である10%以上を達成しました。

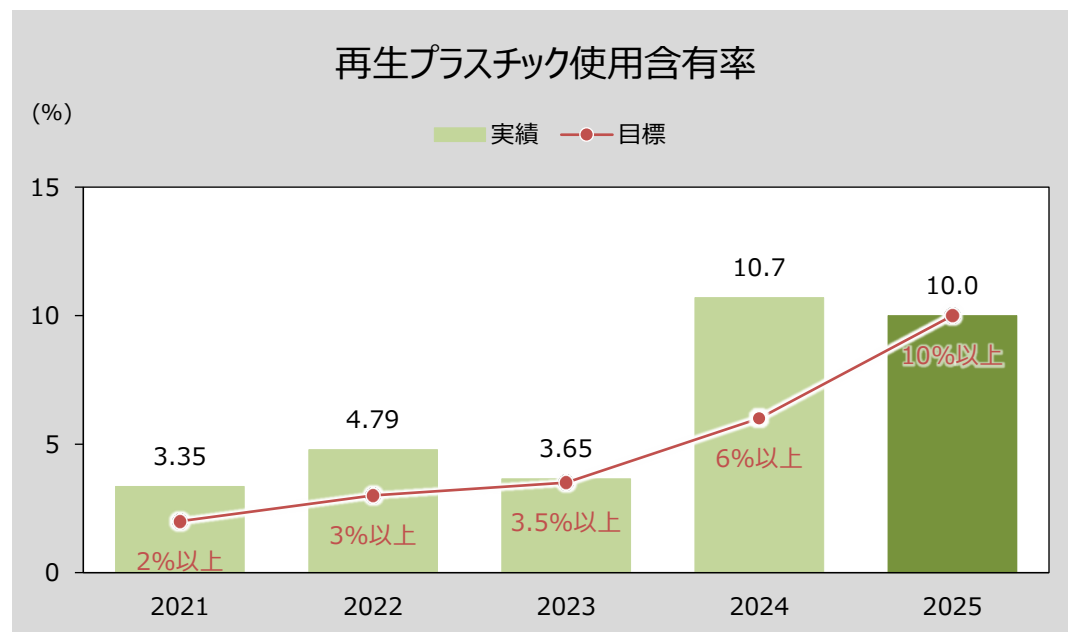


- 原油から作る新品（バージン材）ではなく、再生材を含有する再生プラスチックを大物部品（ボトムケース等）から小物部品（ヒンジカバー等）まで使用することを進め、循環型社会の実現を目指しています。

特にVAIO® S13 (VJS136) / VAIO® Pro PG (VJPG32)においては、前モデル※2の3.9%から19.9%へと再生プラスチック使用量を約5倍に増加させました。

※1 2025年度モデルの平均値です。再生プラスチック使用部位はモデルにより異なります。

※2 2023年9月発売VAIO® S13 (VJS135) / VAIO® Pro PG (VJPG31)



製品の長寿命化

- 高品質なノートPCだから、長く使える

製品の開発過程で各種品質試験を実施し、製品の安全性・堅牢性・耐久性を評価。さらに、専任の技術者の目と手で行われる品質チェックにより、高品質を追求。「安曇野 FINISH」で徹底した品質管理を行い、初期不良の発生を最低限度に抑えています。

- キートップ摩耗による印字剥がれを防止

長期間使用してもキートップの印字が消えにくい、レーザー刻印を採用※。特別配合したUV硬化塗装によりキートップの防汚性を向上させました。

※2026年6月現在販売中モデル

- 内蔵バッテリーの劣化を抑える設計

フル充電状態を維持し続けると劣化し、寿命が短くなる内蔵バッテリーを長く使えるようにする「いたわり充電モード」を進化させました。

- 再配備を考慮した保守サービス

天板やパームレストなどの、汚れやテカリ、傷、日焼けで劣化した外装を新品にリペアする外装交換サービス、新品バッテリーパックへ交換するバッテリー交換サービスを用意しています。



高品質なノートPCだから、長く使える

VAIO株式会社では、製品の開発過程で過酷な品質試験を実施し、製品の安全性・堅牢性を評価しています。

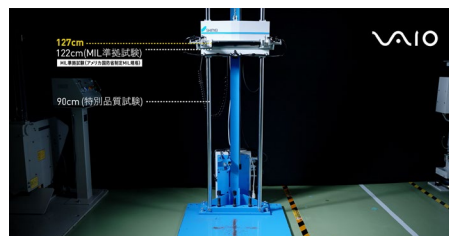
品質の向上により、修理時の環境負荷削減や、製品の長寿命化により廃棄物の削減につながります。

モバイルノート向け 品質試験の例

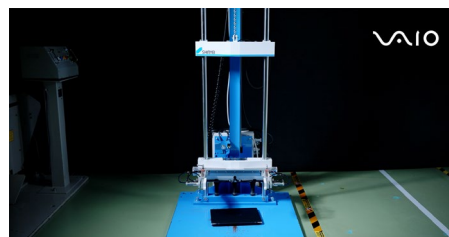


天面・裏面の計2面の落下試験について、アメリカ国防総省制定 MIL規格* (MIL-STD-810H Logistic Transit Drop Test) を超える127cmからの高高度落下試験などによって、これまで以上の堅牢性を証明しています。

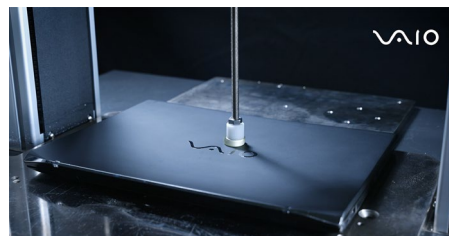
* MIL規格(MIL-STD-810H)に基づいて、一部当社が設定した試験条件に従い試験し、基本機能に動作欠損無き事を確認しています。信頼性データの収集のため実施しているものであり、落下、衝撃、振動または使用環境の変化などによる無破損、無故障を保证するものではありません。



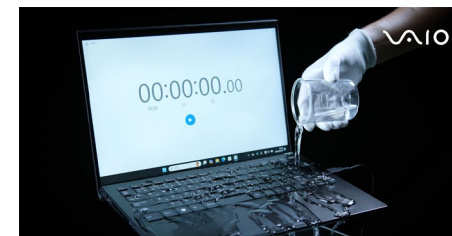
127cm落下試験



90cm落下試験



液晶ハウジング加圧試験



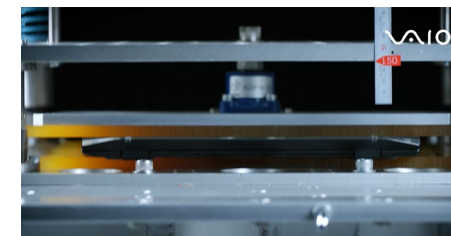
キーボード水かけ試験



液晶限界開き試験



ペン挟み試験



加圧振動試験



角衝撃試験



本体ひねり試験

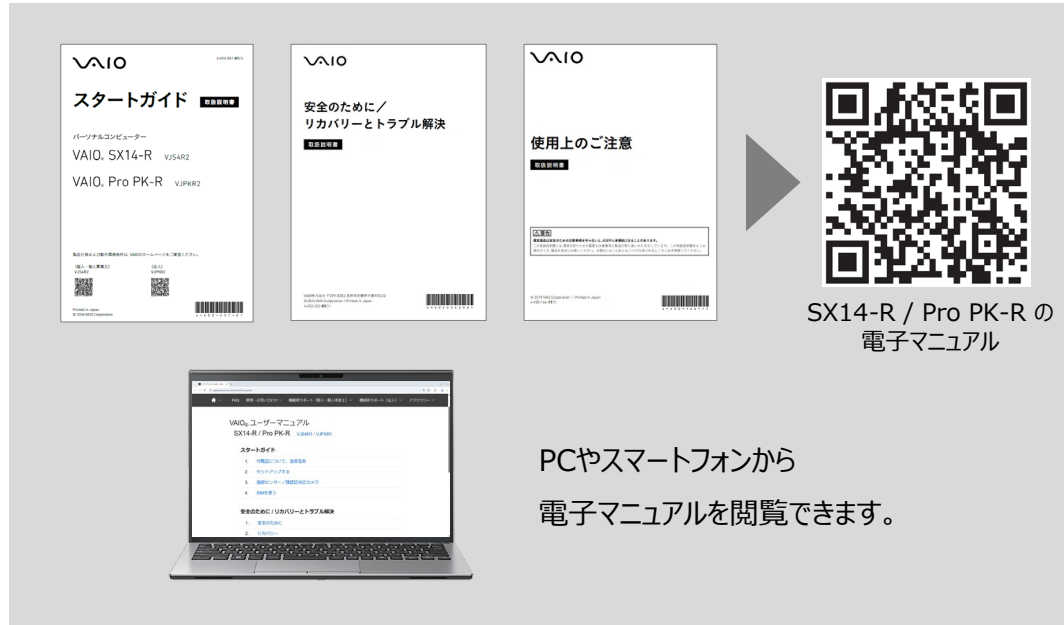
詳細は、弊社ホームページ「品質試験」をご覧ください。 ▶ <https://vaio.com/quality/qualitytest/>

マニュアルの電子化

これまで、マニュアルは紙に印刷した紙マニュアルを製品に付属しておりましたが、マニュアルの電子化を進めています。

お客様はご購入の際に紙マニュアルか電子マニュアルを選択することもできます。

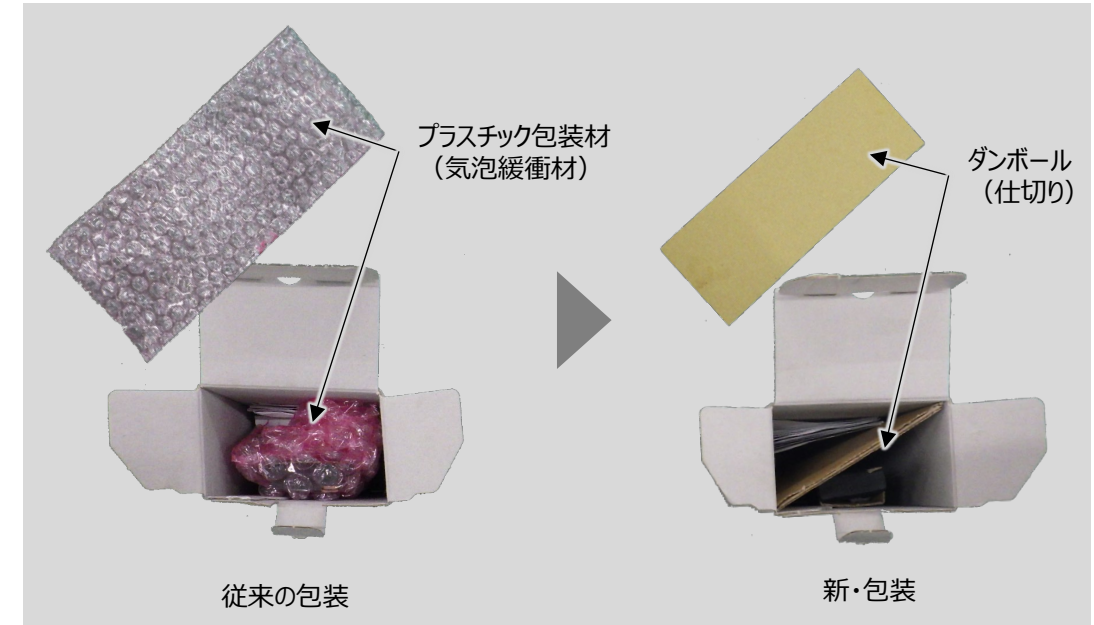
- 電子マニュアルは、いつでもオンラインで閲覧可能です。また、PCのみでなく、お持ちのスマートフォンからも閲覧できます。
- 紙資源の節約、森林の保護につながります。
- 印刷工程で発生する環境負荷低減に貢献できます。



プラスチック包装材の削減

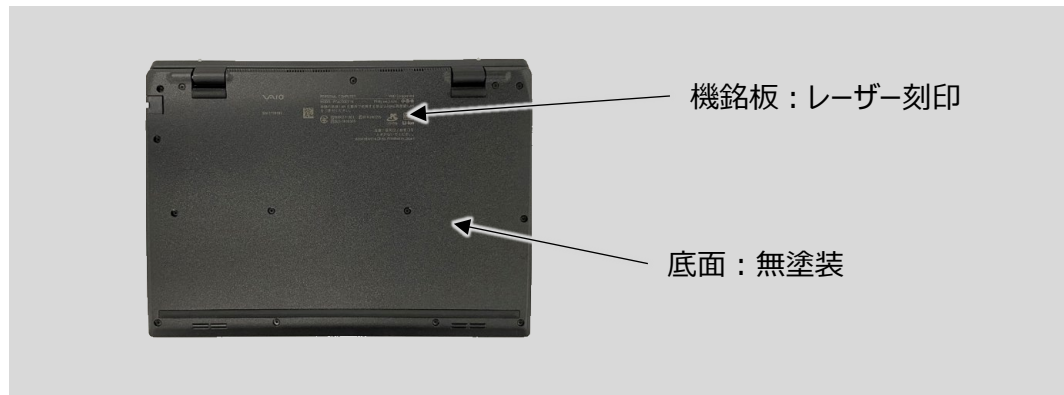
デジタイザースタイルペン 純正（VJ8STD4）の包装において、ダンボールの仕切り部品を追加することで、プラスチック包装材（気泡緩衝材）を削減しました。

- プラスチック包装材使用量の削減につながります。
- 海洋プラスチック汚染の軽減に貢献できます。
- リサイクル性が向上します。

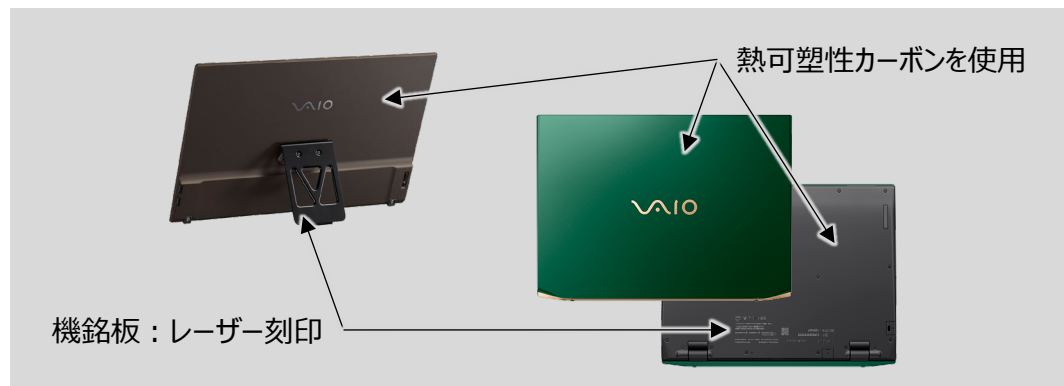


筐体のリサイクル性向上

2025年3月発売開始の VAIIO S13 / VAIIO Pro PG では、筐体底面は無塗装でかつ機銘板を従来のラベルからレーザー刻印へ変更。部品コストや資源の節約だけでなく、リサイクル時にラベルを剥がす必要がないなど、リサイクル性も向上させました。



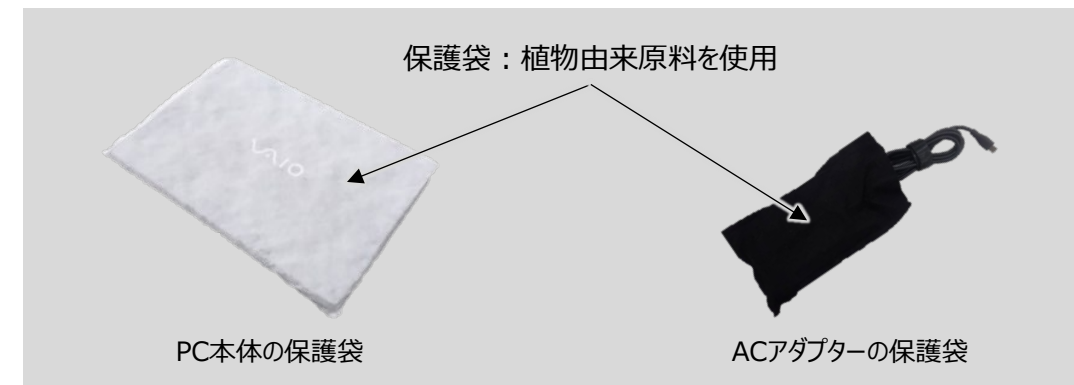
2025年12月発売開始の VAIIO Vision+ 14 / VAIIO Vision+ 14P の背面および2026年5月発売開始の VAIIO SX14-R / VAIIO Pro PK-R の天面・底面に熱可塑性カーボンを使用。従来の熱硬化性カーボンに比べて、リサイクル性が向上しています。



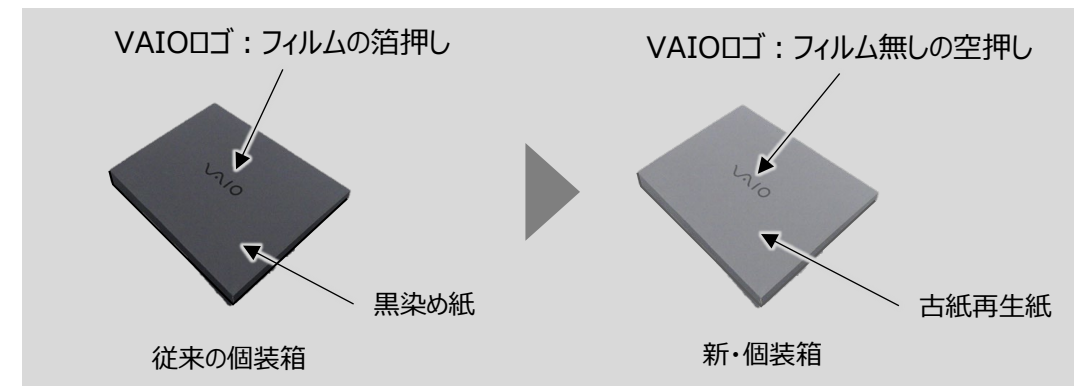
包装における環境配慮

2026年5月発売開始の VAIIO SX14-R / VAIIO Pro PK-R は、PC本体およびACアダプターの保護袋に植物由来原料を採用。プラスチック包装材の使用ゼロ※を実現しています。

※特別仕様モデルは除きます。

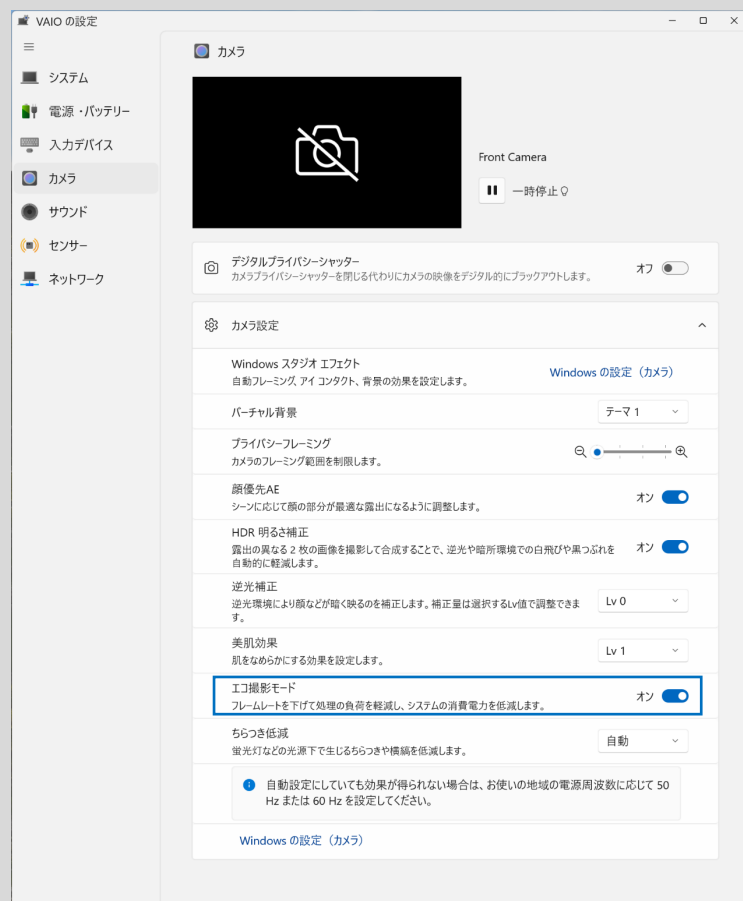


2026年5月発売開始の VAIIO SX14-R / VAIIO Pro PK-R は、個装箱のVAIOロゴをプラスチックフィルム無しの空押しで成形するとともに、個装箱の表面に使用している黒く染めた紙も古紙再生紙を使用することで、資源の節約とリサイクルへ配慮しています。



新しい働き方 を支える パフォーマンス

実駆動時間をより長くするカシコイ機能「エコ撮影モード」を新たに搭載！



「VAIOの設定」に「エコ撮影モード」を追加

- カメラのフレームレートを制御することで、カメラON時の消費電力を低減
 - ・ バッテリー節約設定の連動機能にも、カメラの「エコ撮影モード」を追加
 - ・ AC→DC遷移のバッテリー節約設定有効時、エコ撮影モードもOFF→ON制御

エコ撮影モード

フレームレートを下げて処理の負荷を軽減し、システムの消費電力を低減します。

オン

EPEAT認証の取得

VAIO Pro PK-R / VAIO SX14-Rは、電子機器が環境に配慮して設計・製造されていることを示すEPEAT※1認証において、Silverを2025年7月に取得しました。



VAIO Pro PK-R (日本)

 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO Pro PK-R	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	Japan
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2025-07-24
	Product Status:	Active
 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO Pro PK-R A120	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	Japan
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2026-01-22
	Product Status:	Active

VAIO SX14-R (日本)

 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO SX14-R	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	Japan
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2025-07-24
	Product Status:	Active
 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO SX14-R A120	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	Japan
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2026-01-22
	Product Status:	Active

VAIO SX14-R (米国)

 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO SX14-R	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	United States
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2025-07-24
	Product Status:	Active
 COMPUTERS & DISPLAYS	VAIO SX14-R A120	
	Product Summary:	
	Product Type:	Notebook
	Registered In:	United States
	Manufacturer:	VAIO Corporation
	EPEAT Version:	1.0
	EPEAT Tier:	Silver
	Registration Date:	2026-01-22
	Product Status:	Active

※1 EPEATとは、Electronic Product Environmental Assessment Tool の略で、エレクトロニクス製品が環境配慮商品であることを示す認証です。

9. 生物多様性保全活動

オオルリシジミの保護活動

絶滅危惧種である草原の蝶「オオルリシジミ」の保護区が安曇野にあり、隣接する地区にも生息域を広げるべく、2020年10月より、安曇野本社・本社工場敷地にて、オオルリシジミの幼虫が唯一餌として食べるマメ科の多年草「クララ」の育成を行ってきました。

2025年春、安曇野市の管理団体である「安曇野オオルリシジミ保護対策会議」より、オオルリシジミの「さなぎ」30匹の提供を受け、クララ生育場所付近に放蝶し、2025年5月中旬から約10日間の観察で20匹のオオルリシジミの舞う姿を確認しました。

その後の観察で、交尾・産卵・幼虫を確認し、提供を受けたさなぎが次の世代へと確実に引き継がれていることが確認できました。

オオルリシジミのさなぎが土に潜っている秋から翌年の春までの間、関係者でクララ育成のため周辺の整備を行ってきました。



オオルリシジミ



オオルリシジミの交尾の様子



オオルリシジミの卵



オオルリシジミの幼虫

2025年5月から6月にかけて安曇野本社・本社工場敷地内にて撮影

オオルリシジミの保護活動

2026年5月中旬から下旬にかけて、VAIO敷地内で卵から育ったオオルリシジミの成虫（蝶）7匹を確認し、新聞に掲載もされました。

- 市民タイムス 2026年5月27日掲載 『オオルリシジミの自然発生確認 豊科・VAIOの敷地内で』 ▶ <https://www.shimintimes.co.jp/news/2026/05/post-11726/>
- 信濃毎日新聞 2026年5月27日掲載 『安曇野市のVAIO敷地、絶滅危惧種のチョウが舞う 7年の保護活動が実る』
- 中日新聞 2026年6月4日掲載 『絶滅恐れのおオルリシジミ自然繁殖 安曇野・VAIOで成虫の飛翔初確認』

今後も、成虫（5月～6月） ▶ 卵（5月～6月） ▶ 幼虫（6月～7月） ▶ さなぎ（7月～翌年5月） のサイクルで、2028年までモニタリング調査を実施していきます。



安曇野本社・本社工場敷地内にて観察されたオオルリシジミ



クララ周辺の整備やオオルリシジミを観察するメンバー（一部）

オオルリシジミの詳細に関しては、国営アルプスあづみの公園のホームページを参照してください。

国立アルプスあづみの公園ホームページ ▶ http://www.azumino-koen.jp/horigane_hotaka/new/topics.php?id=2131

本活動にあたり、多大なるご指導をいただいた、那須野 雅好 様（安曇野オオルリシジミ保護対策会議 代表）、中田 信好 様（田淵行男記念館 前館長）には、この場を借りて御礼申し上げます。

10. 環境コミュニケーション

Information Board

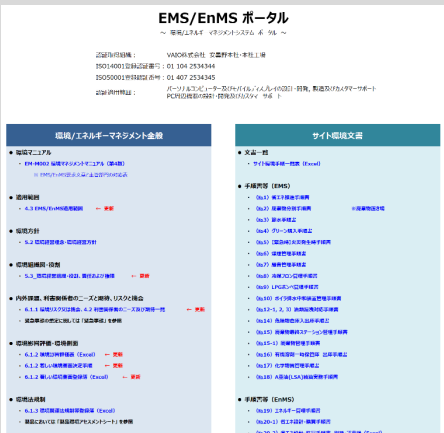
VAIO株式会社では、全従業員が見ることができるように、社員食堂出口に「Information Board」を設置しています。



EMS/EnMSポータルサイト

VAIO株式会社では、従業員向けに「EMS/EnMSポータルサイト」を運用しています。

環境経営方針や手順書など、環境経営に必要な文書や記録などにすぐアクセスでき、内部コミュニケーションに大きく役立っています。



ホームページ による 環境情報開示

VAIO株式会社における「環境配慮への取り組み」を、ひとりでも多くの方に知っていただくため、弊社ホームページに「環境情報」を掲載しています。

<https://vaio.com/environment/>



11. 環境教育・訓練

VAIO株式会社では、定期的な環境教育・訓練のほか、必要に応じた環境教育・訓練を実施しています。

環境教育

新人研修－環境教育－（2025年4月）

新入社員 7名受講

EPEAT新基準勉強会（2025年7月）

環境事務局 5名受講

ISO50001 規格解説講座（2025年9月）

環境事務局 10名受講

2025年度 環境管理物質管理について（2025年10月）

開発部門およびオペレーション部門 89名受講

2025年度 環境一般教育・小テスト（2025年10月）

従業員 444名受講

ISO50001 規格解説及び内部監査ポイント解説講座（2025年10月）

環境内部監査員 19名受講

環境内部監査員説明会（2025年10月）

環境内部監査員 19名受講

構内常駐外部委託先社員向け環境一般教育（2025年12月）

委託先社員 23名受講

ISO50001 更新した手順書・補足事項についての説明会（2026年1月）

部門責任者および環境内部監査員 28名受講

化学物質管理手順書の再教育（2026年2月）

オペレーション部門 17名受講

SDSの読み方、毒劇物法の概要（2026年2月）

オペレーション部門および協力会社 6名受講

令和7年度「グリーン購入法」基本方針Webセミナー（2026年2月）

環境事務局 8名受講

訓練

危険物倉庫入出庫者登録訓練（2025年4月）

化学物質取扱者 6名参加

緊急連絡網訓練（2025年9月）

従業員 376名参加

危険物倉庫入出庫訓練（2025年11月）

化学物質取扱者 8名参加

避難訓練（2025年11月）

訓練時在館者 512名参加

EG棟緊急時対応訓練（ばい煙発生、重油漏洩、高圧ガス漏洩、他確認）

（2026年3月）ファシリティ担当者 5名参加

緊急連絡網訓練（2026年3月）

従業員 373名参加

12. 社会貢献活動

地域美化清掃活動 を実施

「安曇野市豊科地区一斉清掃」にあわせて、VAIOとして春/秋に、始業前の約30分間、安曇野本社周辺道路のゴミ拾いを実施しました。



2025年6月12日 42名参加



2025年11月5日 44名参加

食堂廃油（天ぷら油）を 障害福祉サービス施設 へ提供

社員食堂から出る廃油“天ぷら油”を施設へ提供し、資源として有効利用しています。

施設では、これらを家畜飼料に加工しています。



使用済 ペットボトル・空き缶 を 障害者就労施設 へ提供

社内から出る飲料用の“ペットボトル”および“空き缶”を施設へ提供し、資源として有効利用しています。

施設では、これらを分別・減容・圧縮化しリサイクル工場へ出荷しています。



13. 環境関連法規制等の 順守評価

製品およびサイトに関係する環境関連の法令、規則、条例および利害関係者の要求事項に対しての順守評価の結果、すべて順守していることを確認しました。

また、会社設立以来、違反、訴訟および勧告等の発生はありません。

※順守評価結果 ○：問題なし
△：是正中
×：問題あり

法規制	順守評価結果
大気汚染防止法	○
安曇野市公害防止条例	○
騒音規制法	○
長野県騒音規制法の規定に基づく規制地域及び規制基準等指定	○
安曇野市地下水の保全・涵養及び適正利用に関する条例	○
水質汚濁防止法	○
毒物及び劇物取締法	○
エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（省エネ法）	○
長野県脱炭素社会づくり条例	○
特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律（オゾン層保護法）	○
地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）	○
長野県地球温暖化対策条例	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法）	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	○
資源の有効な利用の促進に関する法律（3R法）	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	○

法規制	順守評価結果
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	○
プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラ新法）	○
資源循環の促進のための再資源化事業等の高度化に関する法律	○
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律	○
消防法（危険物則）	○
高圧ガス保安法	○
工場立地法	○
長野県景観条例	○
安曇野市景観条例	○
利害関係者の要求事項（顧客）	○
利害関係者の要求事項（サプライヤー）	○
利害関係者の要求事項（ディストリビューター）	○
利害関係者の要求事項（従業員）	○
利害関係者の要求事項（株主）	○
利害関係者の要求事項（行政）	○
利害関係者の要求事項（地域社会）	○

14. EMS/EnMS マネジメントレビュー

● マネジメントレビュー基本情報

- ・ 出席者： 環境責任者、環境管理責任者および環境事務局
- ・ 適用規格：ISO14001(EMS) / ISO50001 (EnMS)
- ・ 対象期間：2025年度

● マネジメントレビューの結論

- ・ わが社のEMS/EnMSは引き続き適切・妥当・有効であると判断する

● 前回レビューのフォローアップ

- ・ ISO14001とISO50001の統合運用を開始し、ISO50001認証を取得
- ・ 人員追加は未達（採用継続）
- ・ 環境目標は継続的に達成
- ・ 他規格取得方針は見直し（必要な規格のみ継続）

● EMS/EnMSに関する変更事項

- ・ 外部・内部課題
 - ✓ 脱炭素要求の拡大
 - ✓ 原油価格高騰
 - ✓ 環境規制（PFAS等）の大幅増加
- ・ 法規制・利害関係者要求
 - ✓ 法規登録簿更新（2026年2月）
 - ✓ 法令対応手順の明確化（外部指摘対応）

● パフォーマンス評価

- ・ 環境・エネルギー目標達成状況
 - ✓ CO₂排出量：達成
 - ✓ エネルギー原単位：達成
 - ✓ 廃棄物原単位：達成
 - ✓ 製品環境：全項目達成
 - ✓ EnPI：達成
- ・ 部門環境活動目標達成状況
 - ✓ 27テーマ中26テーマ達成
 - ✓ 未達： モーダルシフト（輸送AIR増加が原因）
- ・ エネルギーパフォーマンス
 - ✓ 原単位改善達成
 - ✓ 空調更新による効率化

● 監査結果

- ・ 内部監査
 - ✓ 規格要求に適合
- ・ 外部審査
 - ✓ ISO14001：維持審査合格 但し、軽微な不適合1件あり（是正中）
 - ✓ ISO50001：認証取得

● 資源の妥当性

- ・ 人員：増員活動継続
- ・ 今後：AI活用などによる効率化検討

● コミュニケーション

- ・ 苦情：なし
- ・ 外部問い合わせ：約40件（環境・調達・認証関連）

● 継続的改善の機会

- ・ SBT（通常版）認定取得に向けた活動強化
 - SBT（中小企業版）から SBT（通常版）へ Step Up
- ・ Scope3削減に向けたサプライヤー管理強化
- ・ 投資計画の事前評価プロセス改善

● 重要な意思決定事項

- ・ 方針・Scope 1・2目標の変更
 - CO₂削減目標を以下へ変更
2035年：温室効果ガス排出量を2024年度比50%削減
- ・ Scope3目標
 - 新規目標設定する
- ・ 戦略
 - FY26重点事項：SBT（通常版）認定取得
 - EnPI：達成

● EMS／EnMS改善・資源

- ・ 人材確保は継続
- ・ AI活用による効率化推進
- ・ システムは現状維持（有効）

● 未達項目への対応

- ・ 輸送改善
- ・ 投資案件の事前評価強化

● 今後の方向性

- ・ SBT（通常版）を軸とした環境経営へ移行
- ・ Scope3重点管理へシフト
- ・ サプライチェーン対応強化

● 環境責任者コメント

- ・ 環境・経営目標ともに達成
- ・ 次年度はSBT（通常版）中心に活動を高度化
- ・ 継続的改善の推進を指示



「VAIO環境経営レポート2025」を最後までお読みいただきありがとうございます。

水と緑豊かな安曇野に立地するVAIOとして、
身近な環境に限らず、国際的な環境活動と調和した事業活動を行い、
持続可能な社会の実現に貢献します。

